

令和5年度実施 協働事業

事業報告書

	事業名	パートナー	担当課	ページ
①	社会環境の変化に対応した地域活動の仕組みづくり支援事業	NPO 法人湘南 NPO サポートセンター	協働推進課	P1
②	農業体験を通して不登校やひきこもりの若者と人材不足に悩む農家をつなぐ就農支援事業	NPO 法人ぜんしん	農水産課 農業委員会事務局	P12

平 塚 市

令和6年3月31日

令和5年度実施 協働事業報告書

(宛先)
平塚市長

(特定非営利活動法人)

団 体 名 湘南NPOサポートセンター

団体代表者 坂田美保子

事業担当課名 協働推進課

事業担当課長 西山聡之

令和5年度に実施しました協働事業について、次のとおり事業報告いたします。

事業名	「社会環境の変化に対応した地域活動の仕組みづくり支援事業」		
事業開始年度	令和3年～	提案型	■ 市民提案型協働事業 □ 行政提案型協働事業
事業費	2,869,900 円	内 訳	市の支出 2,839,000 円 ----- 団体の支出等 30,900 円
事業の概要	平塚市との協働で実施している「ひらつか地域づくり市民大学」は、平成25年より10年間実施してきたが、多くの地域で各種団体役員の高齢化、担い手不足が大きな課題となっていることが明らかになっていた。加えて、新型コロナウイルス感染防止対策の影響により、様々な地域活動、地域行事が自粛、中止となり、その開催内容や方法についても見直していくきっかけとなった。 本事業では、本格的な少子高齢社会のなかでの暮らし方・働き方を踏まえ、地域活動を行う上で参考となるような事例や新しいやり方の試行経過をまとめることで、次世代へ継承していける持続可能な地域活動の仕組みづくり支援を目的とする。 令和3年度は、自治会と通じた地域活動の実態把握のアンケート（自治会アンケート）、行政関係部局内部や有識者へのヒアリングを通じ、問題点と課題解決検討のポイントを整理することを行った。 令和4年度は、前年度の自治会アンケート結果をもとに今後の検討に取り組もうとしている地区との意見交換、新しい検討プロセスの試行に取り組む地区（モデル地区）や地域一体となった実践事例を整理し、地域活動の仕組みづくりのヒントになるノート・事例集の骨子案を作成した。 令和5年度は、前年度作成した骨子案、実践事例整理を踏まえ、モデル地区での地域行事等の実践支援や意見交換を行うとともに、ヒントのポイントから見た実践事例の解説を再整理して「ひらつか地域活動の仕組みづくりノート」として取りまとめた。		

具 体 的 な
実 施 内 容

実施年月日、実施
内容、参加者等
をご記入ください。

- (1)「ノート・事例集」骨子案を踏まえたモデル地区での地域行事等の実践支援と意見交換
- ① 横内地区
- ・「まちづくりを考える会」での新たな行事等の企画実施支援
 - *「これからの横内まちづくりと地域活動を語ろうミーティング」企画
6/17 実施 参加者 30 名
 - *「御霊さんに集まろう！」企画実施支援
9/16、17 実施 御霊神社例大祭での地域主体の演奏会 7 団体協力
 - *「よこうちふるさとマップ」作成企画支援
2/中旬 公民館祭りにて公表
 - ・具体的な成果として、自治会役員以外の地域の方々が参画し意見交換することで新たな提案や動きが見られたことや若い人の声を取り入れることが地域の活性化につながることを共有し、実践に活かすことができた。
- ② LaLa 湘南平塚コモンズ自治会
- ・自治会主体の自主事業企画実施支援
 - *高校生とのワークショップ
9/2 実施 参加者 8 名
 - *自治会主催イベント企画の PR サポート
 - ・具体的な成果として、新しい自治会づくりに向けて住民の声を反映しながらやれることを実践していきたいという意志を尊重し、必要に応じた支援を行った。独自のスタイルを構築し新しい自治会の運営方法を提案できた。
- ③松原地区
- ・まちづくりに踏み出す新たなきっかけづくりのワークショップ実施
 - *「まちあるきとまちの資源の活かし方講座
1/14実施 参加者20名
 - ・参加者からは、地元住民では気づかなかった地域の資源や魅力を知ることができた。ワークショップで得られたアイデアを今後の松原地区の地域づくりに役立てたいという声が多く上がった。
- (2) 若手行政関係者ヒアリング
- ・今後の協働の仕組みづくりのあり方、共創の考え方の検討に向け、庁内の関係部局若手職員のヒアリングを行った。
 - *11/14、17 実施 庁内 7 課
 - ・ヒアリングを実施した結果、若手職員の持つアイデアやまちづくりへの想いを知ることができ、地域活動の活性化と同様、若手職員の声が反映できる体制づくりが今後の平塚市にとっても重要であるとわかった。
- (3)「ひらつか地域活動の仕組みづくり note」の作成
- ①事例集に追加する先進事例のヒアリング
- ・前年度整理した事例に加え、参考となる先進事例の追加ヒアリング
 - *BrilliaCity 横浜磯子自治会 10/6 実施
 - *岡崎市籠田自治会 9/6 実施
- ②「ひらつか地域活動の仕組みづくり note」作成
(全 65 ページ 3 月末発行)
- ・今後の地域活動に関わる方々にもわかりやすいよう、内容構成を再整理し、初年度アンケートを踏まえた地域活動の仕組みのポイントと参考になるヒント事例を体系的に整理した。

	・加えて、同時期に策定された平塚市の「新総合計画」に掲げられている「まちづくりの基本姿勢」を踏まえた“連携・協働”その先の“共創”のあり方について、行政若手職員やモデル地区での地域の方々の声を加味した提言を整理した。
--	---

＊平塚市の地域活動の変遷

＊これからの地域活動のポイント

＊これからの仕組みづくりの5つのヒント

＊ヒント事例 12 事例

＊これからの地域・まちづくりの共創にむけて

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

令和5年度実施協働事業 決算報告書

① 収 入	項目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由・収入内容・単価・数量等)
	市の支出	2,839,000	2,839,000	0	
	団体の支出	27,000	30,900	3,900	会議費 (コピー代他)、仕組みづくりノート取材時の手土産代 仕組みづくりノート人件費
	事業収入				
収入合計		A 2,866,000	B 2,869,900	B - A 3,900	
② 支 出	項目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由・収入内容・単価・数量等)
	謝金	45,000 (45,000)	35,000 (35,000)	-10,000	「ひらつか地域活動仕組みづくりnote」作成に向けた視察 (岡崎市5000) 〃 ヒアリング、助言及び確認 (BrilliaCity横浜磯子自治会30000)
	賃金	2,430,000 (2,430,000)	1,906,250 (1,890,700)	-523,750	全体企画・進行管理 4H*23日*1人*2,000=184,000 5H*1日*1人*2,000=10,000 実践企画支援 4H*10日*4人*2地区 (横内・LaLa湘南)*1,500=480,000 実践プロセスの記録 4H*2日*4人*2地区 (横内・LaLa湘南)*1,500=96,000 実施効果の住民ヒアリング 4H*2日*4人*3地区 (横内・LaLa湘南・松原)*1,500=144,000 ヒアリングから見た改善点の整理 4H*2日*4人*2地区 (横内・LaLa湘南)*1,500=96,000 ひらつか地域活動仕組みづくりnote編集作業 4H*20日*2人*1,500=240,000 ひらつか地域活動仕組みづくりnote編集作業 4H*20日*4人*1,500=480,000 ひらつか地域活動仕組みづくりnote編集会議 3H*2日*2人*3回*1,500=54,000 ひらつか地域活動仕組みづくりnote編集会議 3H*2日*4人*3回*1,500=108,000 ひらつか地域活動仕組みづくりnote編集会議 2.0H*1日*4人*1回*1,500=12,000 1.5H*1日*1人*1回*1,500=2,250
	印刷費	310,000 (310,000)	799,122 (799,122)	489,122	ひらつか地域活動仕組みづくりnote 全65ページ:400部発行 (企画デザイン・打合せ・編集・校正・印刷費全て込み)
	旅費・交通費	54,000 (54,000)	92,100 (92,100)	38,100	モデル地区実践に向けた打合せ交通費、仕組みづくりnote打合せ交通費 研修交通費 (岡崎市・小規模多機能自治勉強会)
	食糧費	27,000 (27,000)	3,042 (0)	-23,958	仕組みづくりノート取材時の手土産代
	消耗品費	0 (0)	11,028 (11,028)	11,028	会議用コピー用紙、仕組みづくりノートカラーコピー代、インク代等
	支払手数料	0 (0)	2,750 (2,750)	2,750	謝金、賃金支払手数料
	研修費・会議費	0 (0)	20,608 (8,300)	20,608	小規模多機能自治研修会参加費8,300 モデル地区打合せ・仕組みづくりノート打合せコピー代等12,308
	支出合計	C 2,866,000 (2,866,000)	D 2,869,900 (2,839,000)	D - C 3,900	
収支決算額		B 2,869,900 円	D 2,869,900 円	= 0 円	【備考】

※支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	(特定非営利活動法人) 湘南NPOサポートセンター	☒ 団体 ☐ 行政
事業名	「社会環境の変化に対応した地域活動の仕組みづくり支援事業」	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	5	コロナ禍の行事自粛から市内各地での地域行事再開や見直しが始まり、役員交代と相まって地域活動、運営の仕方について改めて考えていこうとする機運が高まり、市への相談・問合せ等も増えつつあり、本事業の目的や必要性の共有化がさらに進んだと思われる。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	4	ヒント事例に対象とした地区の詳細情報収集の他、「ひらつか地域づくり市民大学」においても次世代につながる地域運営・地域活動の先進事例を紹介するうえでの調整を市が担ったことは効果的だったと認識している。 また、今後の展開を考慮し、行政側の若手職員ヒアリングの実施にあたっての調整に円滑に行うことができた。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	4	新総合計画策定のタイミングと重なったことにより、行政側若手職員の声を反映していこう等、成果の打ち出し方については協議を重ねながら取り組めたと認識している。 ヒント事例集としては、地域や住民の立場からだけでなく、行政や企業がどのようにかかわったかをわかりやすく伝えていく点ではもう少し工夫の余地があったと思われる。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	4	担当課だけでなく、地域活動に関わる関係各課とのつながりができはじめ、本成果を次に展開していく重要性の認識は共有できたと思われる。

⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	新総合計画策定のタイミングと重なったことにより、今後の共創型の取り組み支援や研修等について、連携しながら企画できるきっかけにもなったことは、一歩進んだ点と認識している。
-------------------------------------	---	--

評価の流れ **A : 「自己」評価シート** → B : 「相互」評価シート → C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	これから地域活動に関わる市民や関係機関の方にもわかりやすいヒント集という点では、専門デザイナー担当のもとコンパクトに整理できたと認識している。 当初、成果の報告会を予定していたが、新総合計画策定や自治会等の総会開催のタイミング等の兼ね合いで、当初予定の成果報告会が年度内に開催できなかった点は事業スケジュールの見込みがやや不十分であったと思われる。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	5	市内外の先進事例を体系的に再整理することで、各地域との信頼関係をさらに向上することができたのではないかと 思われる。 また、視覚的にもわかりやすいヒント集、事例集として整理したことにより、今後、地域活動団体だけでなく、企業や経済団体の研修、学校での地域連携活動等の素材として幅広く活用していただけると認識している。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。 （受益者からの評価がわかる場合）	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 各種地域行事の運営側への中高校生の参画も見られはじめており、加えて、コミュニティスクールの拡大に伴い幅広い世代が地域活動へ関心を持つ仕掛けができつつあることで、地域活動を“わがこと”として考えていく機運につながっていくと理解している。

(3) 実施したメリット

市民の メリット	従来踏襲型の活動を見直しの必要性、重要性を地域活動団体役員以外の幅広い市民と共有していくきっかけとなり、“わがこと”として楽しく参画してもらえる機会や場づくりができることを感じてもらえるようになったのではないかと考える。
団体の メリット	運営を委託されている「市民活動センター」、共催である「ひらつか地域づくり市民大学」での講座に加え、共創型地域活動推進の研修のような活動の柱の一つに仕立てていけるのではないかと 思われる。
市の メリット	新総合計画に掲げる10年後を見据えた共創のまちづくりに向け、若手職員の主体性向上、現行の規程や制度の運用や時代にあった基準を検討していくきっかけとなっていくのではないかと 思われる。

(4) その他、課題やその改善方法など

今回は、身近な取り組み事例からのわかりやすさを重視して平塚市内を中心とする事例集としたが、今後定期的な見直しにより時代に合ったノート・ヒント集としての活用していくことを意識していきたい。

また、地域活動団体の役員数や関連予算の横断的活用等、具体的かつ現実的な課題までは触れることができなかったため、今後地域の実情に留意しながら行政側での見直し検討されることを期待したい。

(5) 今後の具体的な展開

■今後も双方で実施 (□提案型 ■提案型以外)

□行政が単独で実施

□その他 (

□休止または終了

□団体が単独で実施

)

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

本事業の成果を通して、縦割り型から地域（各種地域団体）、行政、学校、企業が連携したスマートな地域運営・課題解決の仕組み（ヒト、コト、バショ、カネの歯車の再構築）を「ひらつか共創スタイル」として整えるきっかけとし、「地域活動支援モデル」として継続した取り組みが行えるような体制づくりを平塚市とともに検討・実施していきたいと考えている。

そのため、本事業名にも掲げた「仕組みづくり」も基本は新しい仕組みを動かす「ひとづくり」が重要であり、新総合計画のスタートを契機に10年後の市制100年に向け、広く市民のへの発信の場づくりの着手していくことを企画していきたい。

そのスタートアップとして、令和6年度の県の「地域づくり活動促進事業」へ要望中である。

また、地域課題に対して国が進めている“協議”と“実行”の両機能を持つ「地域運営組織」化についても、現在市内ではその取り組みはないため、これを機会に地域活動推進会議等の発展的組織化を検討されることを期待している。

団体としての役割を発展させていく点からは、今回のノート・ヒント集をもとに過去作成したひらつか元気地域事例集等の改訂を行い、これらを合わせた出版化やセミナー企画による収入源の一助、あらたな地域づくりカレッジのような実践力育成・支援につなげていくことを考えていきたい。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	協働推進課	☐ 団体 ☒ 行政
事業名	「社会環境の変化に対応した地域活動の仕組みづくり支援事業」	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	5	事業開始以降、地域活動の持続可能性を高めていく機運がさらに高まったこともあり、団体と共催で行っている「ひらつか地域づくり市民大学」においても、本事業の目的と同じようなテーマの講座を実施したことで、団体との目的の共有化がさらに深まったと思われる。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	4	成果品となる仕組みづくりノートの実案作成は団体が中心を行ったが、関係各所との調整や内容確認など、完成に向けた最終的な確認と読み合わせ等については、団体と行政とで何度も繰り返し行うなど、適正な役割分担のもと事業を進めることができた。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	4	成果品となる仕組みづくりノートをどのように仕上げるか、それらを今後どう活用していくかの協議を十分に行うことができた。また、今後のノートの活用に向け、県の支援制度を活用した新たな取組についても協議を行った。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	対等な立場であるということを念頭に置き、活発に意見交換するとともに、最終的な仕組みづくりノートの作成段階においても、一方に任せきりなることなくお互いの考えを尊重しながら事業を進めることができた。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	仕組みづくりノートに事例として掲載される自治会や市の関係する各課との調整については、市が行い、それ以外の、仕組みづくりノートの作成に関しては、団体のこれまでの経験やノウハウを活かして行うことで、スムーズに事業を進めることができた。協働して取り組むことで、市職員が団体の経験やスキルを学ぶ機会を得ることができた。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→ B : 「相互」評価シート → C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	団体と連携を図り、最終的に成果品となる仕組みづくりノートを作成することができたが、想定よりも作成に時間がかかり、当初予定していた成果報告会が年度内に開催できなかった点は事業スケジュールの見込みがやや不十分であったと思われる。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	4	地域からは担い手不足や役員の負担軽減、若い世代が参加しないといった相談を受けることが多かったが、これまで、担当課として提供できる参考となるような資料がなかったため、相談を受けた際に、提供できる資料ができたことは大きな効果である。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。 （受益者からの評価がわかる場合）	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 今後、地域に提供するので、満足度を図ることは現時点では難しいが、仕組みづくりノートには、地域から相談を受けることが多い課題にどう対応すべきかを、わかりやすく記載しているため満足度は図られると思われる。

(3) 実施したメリット

市民の メリット	従来踏襲型の活動を見直しの必要性、重要性を地域活動団体役員以外の幅広い市民と共有していくきっかけとなり、“わがこと”として楽しく参画してもらえらる機会や場づくりができることを感じてもらえるようになる。
団体の メリット	仕組みづくりノートを作成したこと、また、今後、それらを地域で活用してもらうことで、知名度や信用度が上がり、団体としての今後の取り組みにプラスになるとと思われる。
市の メリット	総合計画のコミュニティ活動を促進する施策の中で、多様な主体間の連携や協働をその取組方針としていることから、市の計画を進めていくための材料として有効である。

(4) その他、課題やその改善方法など

地域によって、歴史や環境、関わる人々など背景は様々であることから、仕組みづくりノートのやり方や考え方が当てはまらない地域もあると思われる。今後、地域に提供する場合は丁寧に説明するとともに、当てはまらない地域にも、今後見直していくきっかけの一助にしていきたいと考える。

(5) 今後の具体的な展開

■今後も双方で実施（☐提案型 ■提案型以外）

☐行政が単独で実施

☐その他（

☐休止または終了

☐団体が単独で実施

）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

仕組みづくりノートを引き続き団体との協働により活用していくため、神奈川県支援制度を活用した新たな取組について協議している。
また、活動の見直しを検討している自治会や地域活動団体などからの相談や要望には積極的に関わっていききたいと考えている。

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団 体 名	(特定非営利活動法人) 湘南NPOサポートセンター	担当課名	協働推進課
事 業 名	「社会環境の変化に対応した地域活動の仕組みづくり支援事業」		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

3カ年の成果となる「仕組みづくりノート」のヒントポイントを地域側中心にまとめるか、官民の連携性に着眼して行政や企業の関わり方にも触れていくかについて協議した。

今後の展開性を考えると、「新総合計画」に掲げられている「まちづくりの基本姿勢」を踏まえた“連携・協働”の行政側の具体的な取り組み姿勢にも触れていくことが重要であることを共有した。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

事例の中で、今後の官民の連携性については参考となる事例においてそのヒントになるポイントを紹介するだけでなく、行政側の若い職員の生の声をヒアリングしながら、課題の共有とさらなる連携の可能性を探っていくことが重要であることを確認し、当初事業内容にはなかったが、関係各課若手職員ヒアリングを実施した。

また、若い世代が地域活動へ参画している先進事例を単に事例として紹介するのではなく、「地域づくり市民大学」において講演していただくことで、その重要性を実感してもらえるようにした。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

コロナ禍自粛終了後の地域活動に再開ではその内容や情報発信・周知においても徐々に工夫していく動きを感じることを共有でき、本成果を幅広く公表し、有効活用していくべきと確認した。

団体（NPO）においては、中間支援法人として、地域活動の担い手育成や各種市民活動団体との連携の場づくりの一助になるとともに、今後、共創社会づくりのリーディングサポーターをめざしていく目標設定ができたといえる。

市においては、市制 100 年を見据えた新総合計画の理念の一つともいえる「共創・協働型の地域運営」を推進していくべく、関係部局連携に着手していくきっかけになると思われる。

(4) その他、課題やその改善方法など

団体（NPO）と市が共催して、今回成果の発信、さらなるアイデアだしの研修等を企画していくことが重要と考える。

(5) 今後の具体的な展開

■今後も双方で実施（☐提案型 ☒提案型以外）

☐休止または終了

☐行政が単独で実施

☐団体が単独で実施

☐その他（

）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

役員負担の軽減は急務であり、活動財源の制約が予想される中では、地域単位で“協議”と“実行”の両機能を持つ運営組織化は時代の流れであると考え。そのような新しい仕組みづくりに向けては幅広い関係機関の合意が不可欠である。

本事業の成果をスタートとして位置付け、新しい共創実践に向けた“地域運営組織化”を見据えて、自治会をはじめとする各種地域活動団体と関係部局との意見交換を重ねていく機会を設けることの必要性を確認した。

さらに提案した仕組みづくり支援を市内関係者に広く周知し、幅広い理解を重ねていくため、令和 6 年度要望中の「地域づくり活動促進事業」を活用して、実装化をめざしたセミナーやワークショップを企画していくことを確認した。

令和 5 年度実施 協働事業報告書

(宛先)
平塚市長

団 体 名 特定非営利活動法人ぜんしん

団体代表者 柳川 涼司

事業担当課名 ・平塚市農業委員会事務局
・産業振興部農水産課

事業担当課長 西山 靖朗 / 市川 徹

令和 5 年度に実施しました協働事業について、次のとおり事業報告いたします。

事業名	農業体験を通して不登校やひきこもりの若者と人材不足に悩む農家をつなぐ就農支援事業 ～平塚市「スマートライスセンター」の通年営業モデルの創出に向けて～		
事業開始年度	令和 4 年～	提案型	☒ 市民提案型協働事業 ☐ 行政提案型協働事業
事業費	2,632,818 円	内 訳	市 の 支 出 2,624,758 円 ----- 団体の支出等 8,060 円
事業の概要	当団体は過去 6 年に渡り、平塚市と不登校・ひきこもりに悩む親子へ先ず、家から外へ出て、きっかけを得る為の居場所を提供して来た。次いで、居場所で元気になった若者が同市・中央図書館に出向き、本の修繕等のボランティア体験を行うことで就労に向けて自信を培うまでに至ったが、未だ就労に結びつかない若者が存在している。その為、より実践的な職業体験の場を設け、彼らが就労に繋がる機会を提供する必要があると考えた。 本事業では、働きたい意思を持ちながら働きづらさを抱える若者が、稲作の受託組織である湘南ライスセンター等にて農作業体験に参加する。彼らの自立を促す社会参加の場を確保するとともに、スマート農業を導入し、デジタル化を推し進めている湘南ライスセンターで、適性に応じて就農を支援しながら、同所の通年営業の可能性を検証していくことを目的とする。それにより、若者の自立や県内トップの米どころの維持等を目指していく。		
具体的な実施内容	初年度は、若者と農家の方々との信頼関係づくりを大切にしながら若者の自立を含め、スマートライスセンターの通年営業モデルの構築に向けた実証を進めるため、以下の事業を実施した。 ①4 月～2 月 湘南ライスセンターで農家(各農家)の方と体験スケジュール等の確認を行う、初回ヒアリングを実施[4/17(月)]。農家の方と体験内容等の意見交換[6/1(木)]や就農希望者の受入れに向けた打合せ[8/30(水)]ほか、団体スタッフによる会議を開く(31 回) ②4 月～10 月 体験者を受け入れる準備・手続き等を行う為の「事前説明会」を春と秋に開催する[4/27(木)25 名、9/19(火)15 名]。また、春と秋の体験終了後に「振り返りの場」を設け、体験者と意見交換等を行った。秋期は体験者自身が生産に携わった、お米の試食会も併せて実施した[6/2(金)13 名、10/31(火)15 名](4 回) ③4 月～3 月 配布資料・打合せ・アンケート分析等の書類作成に加え、作業内容の理解を深め、関係各位とのコミュニケーションツールとな		

実施年月日、実施内容、参加者等をご記入ください。

- る「作業手引き」等を作成(82回)
- ④5月～2月 農作業の体験…播種、ハウス移動、外出し、水まき、選別、袋縛り等の作業を湘南ライスセンターほかで体験する(22回)
【春の体験者数：延べ45名 / 活動日数：8日】
【秋の体験者数：延べ58名 / 活動日数：14日】
 また、湘南ライスセンターで自信をつけた若者2名が、市内の農園にて「きゅうりの収穫作業」に挑んだ。

氏名	期 間	内容①	成果①	内容②	成果②
Yさん	4/3～7/7[45日]	もぎ取り	12,070本	選別	5,200本
Nさん	4/7～7/7[44日]	もぎ取り	22,200本	選別	1,450本

- ☆週3～4日、1日当たり約3時間という「雇用トライアル」を経験したYさんは、R5年9月から農園に就農することになった。
 ☆R6年1月～2月にも同農園にて6日間、「雇用トライアル」に挑戦した若者も存在する。現在、春から始まる3ヵ月間のトライアルに挑むか検討している。
- ⑤5月～1月 業務改善等に向けたミーティングや具体的な改善作業の実施…
 若者の適性に応じた業務提案のために、ライスセンターにおけるスマート農業を活用した業務内容等を検討する。湘南ライスセンターの方々から依頼を受けた事柄について体験者の若者たちを含め、協議を重ねた(15回)
- ☆デジタルに関するサポートや業務改善提案については、次の内容を実施した
- 1)パソコンのメール内容の確認
 - 2)スマート農業の補助金申請のお手伝い
 - 3)掲示物のデジタル化(電話帳作成)
 - 4)事務所内の電源周辺の改善提案(機器の交換)
 - 5)スマート農業端末のトラブル時の対応 (提案/対応数：5件)
- ☆業務改善提案等のミーティングを開く中で、湘南ライスセンターや市内の農園で実施した作業内容のマニュアル化を図り、「作業手引き」を完成させた。今後、「作業手引き」を用いて、新たな体験者の指導やスタッフの育成等に役立てていきたい。また、「雇用トライアル」を受け入れてくださる農家の方のもとにおいても「作業手引き」の作成・編集を推し進めていく。
- ⑥3月 実証してきた提案のまとめに向けて、若者や団体スタッフらによる「話し合い・振り返りの場」を設ける[3/12(火)、27(水)](2回)
- ☆協働事業として2年間の体験を通して農家の方々との信頼関係は構築できたものと振り返っている。今後は、作業体験やデジタルサポート等を重ねる中で、湘南ライスセンターの通年営業の可能性についても引き続き、探っていきたい。
- ☆本年度は、当該事業を通して就農者1名を含む、3名の方が自立に至る。2年間で合計7名(就労6名、進学1名)の方々が、自立した。今後も、より多くの方々の自立を支えていきたい。

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

令和 5 年度実施協働事業 決算報告書

① 収入	項目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
	市の支出	2,624,758	2,624,758	0	
	団体の支出	157,400	8,060	-149,340	団体の正会員費等から充当 減額理由：ノートパソコンの追加購入等を控えた為
	事業収入	0	0	0	参加費は徴収しない
	収入合計	A 2,782,158	B 2,632,818	B-A -149,340	
② 支出	項目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
	実証・検証報酬 [責任者]	881,250 (881,250)	978,750 (978,750)	97,500	※別紙、「人件費明細書」参照 増額理由：秋期の農業体験等を多く実施した為
	実証・検証報酬 [団体スタッフ]	1,069,750 (1,069,750)	1,325,150 (1,325,150)	255,400	※別紙、「人件費明細書」参照 増額理由：秋期の農業体験等を多く実施した為
	事務用品費	153,638 (53,838)	79,586 (79,586)	-74,052	プリンター用インク代：16,229円、 封筒・クリアホルダー・コピー用紙・筆記用具ほか：63,357円
	消耗品費	147,240 (89,640)	52,188 (52,188)	-95,052	PC周辺機器：16,049円 (office77ほか)、農作業用品：29,455円 ほか ※減額理由：ノートパソコンの追加購入等を控えた為
	旅費交通費	216,900 (216,900)	21,800 (21,800)	-195,100	1,120円×5回+1,060円×5回 (大磯⇄平塚⇄平塚駅北口⇄大島) ほか
	印刷製本費	40,500 (40,500)	53,383 (53,383)	12,883	パンフレットデザイン費：30,000円、パンフレット (A4・カラー両面・2,500 枚)・ポスター (A1・カラー) 作成：[春期]10,811円と[秋期]10,242円 他
	通信運搬費	18,000 (18,000)	21,280 (21,280)	3,280	パンフレット郵送費：[春期]郵送費250円×31枚+210円×1枚=7,960円、 [秋期]レターパックライト：370円×36枚=13,320円
	保険料	254,880 (254,880)	85,250 (85,250)	-169,630	体験者およびスタッフの傷害保険料 春期：2,290円×13人=29,770円、 秋期：2,290円×14人=32,060円、雇用トライアル：23,420円
	賃借料ほか ※お米の試食会関連費	0 (0)	15,431 (7,371)	15,431	炊飯器 (2升炊き 二泊三日 レンタル)：8,360円、 お米の試食会の食糧費：7,071円
	支出合計	C 2,782,158 (2,624,758)	D 2,632,818 (2,624,758)	D-C -149,340	
③	収支決算額 B 2,632,818 円 - D 2,632,818 円 = 0 円				【備考】

※支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	特定非営利活動法人ぜんしん	■団体 □行政
事業名	農業体験を通して不登校やひきこもりの若者と人材不足に悩む農家をつなぐ就農支援事業 ～平塚市「スマートライスセンター」の通年営業モデルの創出に向けて～	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	5	不登校やひきこもりに悩む当事者の特性等を踏まえながら農業体験を通して彼らが自信を培い、社会復帰への意欲を高め、就農(自立)を促すという目的を見失わずに事業を実施できた。また、丁寧に情報を共有しながら、事業を展開することが出来た。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	5	当初、掲げた計画通り、団体と市による適正な役割分担のもとに事業は実施された。 「寄り添いスタッフ」を提供し、また、体験者の「メンタルケア」も事前事後時に実施できた。 また、本事業の広報活動だけでなく、デジタルサポートの実施に際は、市の方に相談する等、協力も得られた。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	5	事業の準備段階からメール等で団体スタッフと市担当職員様との間で作業内容・実施報告等を双方で確認した上で事業に臨むことが出来た。農業体験等の実施後も状況を見ながら、双方で振り返りの時間を設け、今後の事業展開で要する改善点等の情報共有を図ることが出来た。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	団体と市は、互いに対等で双方の立場を尊重し、良好な協力関係を維持しながら事業を実施できた。 成果や問題点等については、事業後の話し合いや「作業報告書」等を作成し、情報共有を図りながら、互いが対等な立場で、解決策を考え、事業に反映することが出来た。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	団体単独では本事業の成立は困難を極めたと思われるが、協働事業として事業を実施できたことにより、農家様ら関係各位と円滑なコミュニケーションが図れた。更に市の職員から農業情勢の指導等を受けることが可能になった。参加者が安心して参加できる等の効果が得られている。

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	目標としていた参加人数や体験回数も大きく上回り、「成果目標値」は、多くの項目で達成することが出来た。 また、「作業手引き」は予定通りに完成している。 更に、デジタル関連のサポートについても農家の方々の要求に迅速に応じ、結果を残せたと振り返っている。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	4	農家様から「人手があるから他の作業が出来るし、助かる」等のご意見も頂いている。 また、今期は就業者を3名、輩出した。更に、昨年度の本事業の体験者の中から就農に至る方が現れており、費用対効果は、得られたと考えている。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。（受益者からの評価がわかる場合）	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 農家様から「仕事が丁寧だ！」等のお話もあり、若者たちは頼りになる労働力として評価されている。また、体験者のアンケート結果による<満足度(10段階申告)>は、平均値で8.4点と判明した為、評価を頂けたと受け止めている

(3) 実施したメリット

市民の メリット	・若者は、自立に向け、より実践的な体験ができ、就労も可能になった ・農家、若者ともに、新たな労働力、雇用の創出につながられた など
団体の メリット	・事業実施に要する「職業体験」の場を確保できた ・数多くの職業人と接する為、会話や対人訓練等の場を得られた など
市の メリット	・農業の課題として「不足する労働力」を補うことができた ・市内の相談機関等を訪ねても解決策を得られない当事者に対し、自立に向けて希望を与えることができた など

(4) その他、課題やその改善方法など

今後も農業体験等を実施するにあたって以下の対応策を検討している。

- ①当事者へ適切な助言ができるように農作業体験等の作業内容の理解を今後も深めていく。
- ②当該事業を支えるスタッフの増員と育成。
- ③協働事業終了後も本事業を継続する為の資金等。

(5) 今後の具体的な展開

☐ 今後も双方で実施（☐ 提案型 ☐ 提案型以外）

☐ 休止または終了

☐ 行政が単独で実施

☐ 団体が単独で実施

■ その他（委託事業として市から支援を頂きながら事業基盤を固め、発展させることを目指す）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

- ・次年度以降も農家様らと築き上げた関係性を維持・強化しながら農業体験を実施する。また、体験者の適性に応じて、市内の農業従事者のもとへ体験者を派遣し、自立を促していきたい。
- ・農業体験等で作成した各ツールを今後の活動に有効活用していく（派遣先での活動紹介等）。
- ・協働事業終了後も自主財源を確保する仕組みを構築し、本事業を継続していく。体験者たちが、段階的に自立できるようなシステムを維持しながら本事業を発展させていきたい。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	産業振興部農水産課 平塚市農業委員会	☐ 団体 ☒ 行政
事業名	農業体験を通して不登校やひきこもりの若者と人材不足に悩む農家をつなぐ就農支援事業 ～平塚市「スマートライスセンター」の通年営業モデルの創出に向けて～	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	5	ひきこもりの若者への自立支援をしながら、人材不足の農業への新たな労働力・雇用の創出につなげることを目的としています。若者と農家の双方にメリットである事業を目指すことを、団体と確認しながら進めています。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	4	就農先となる農家との連絡調整や広報対応など、適切に実施できたと考えています。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	4	団体と頻繁に意見交換を行いながら、丁寧に農家との信頼関係を築いてきました。また、ひきこもりの若者の特性について、受入農家等に正しく理解してもらえるように努めました。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	4	「自立支援」と「農業の担い手確保」という、お互いの目的を理解し、対等な立場であることを共有しています。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	4	ひきこもりの若者の農業体験が実現し、その働きぶりについて農家から一定の評価を受けており、信頼関係を構築できています。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→ B : 「相互」評価シート → C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	目標値については概ね達成でき、農業体験の実施によって、一定の新たな労働力が得られました。また、今年度の体験者の中から3名が自立し、その内1名は就農者となり、「農業の担い手確保」という結果を得ることができました。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	4	農家の信頼を得ていくには時間を要しますが、体験者から就農者が輩出される基盤は、少しずつ整いつつあります。今後は、ライスセンターの作業で得た農家からの信頼を基に、労働力の提供および雇用創出の場を広げていきたいと考えます。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。（受益者からの評価がわかる場合）	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など ひきこもりの若者の農業体験について、ライスセンター役員と振り返りを行う中で、その働きぶりについて「真剣に取り組んでくれて感心した」などという一定の評価が得られています。

(3) 実施したメリット

市民の メリット	・若者は、自立に向けた実践的な体験ができた。 ・人手不足の農家が助かった。
団体の メリット	・ひきこもり等の若者への「職業体験」の場を確保できた。 ・数多くの職業人と接する為、会話や対人訓練等の場を得られた。
市の メリット	・若者の体験作業が、農業の新たな労働力に繋がった。 ・本事業により、社会における農業の価値が向上した。 ・ひきこもり等の若者の社会復帰への一助となることができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

協働事業終了後、団体の自主的な事業の継続に向け、受入態勢や運営方法の検討等、若者の雇用や就農が実現する仕組みづくりが必要です。ライスセンターでの体験を継続しながら、新たに体験を受け入れてくれる農業法人や農家を発掘し、雇用や就農などに導くことができるように検討していきます。

(5) 今後の具体的な展開

- ☐ 今後も双方で実施（☐ 提案型 ☐ 提案型以外）
 ☐ 休止または終了
☐ 行政が単独で実施
 ☒ 団体が単独で実施
☒ その他（委託事業として支援を行い、団体の所掌内容を増やし将来的には団体での単独事業化を目指します。）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

受入農家との信頼関係の構築ができたことから、事業収入を見込んでいる状況です。今後慎重に受入農家等を確保しながら参加者確保を進め規模拡大できるよう団体と検討を進めていきます。

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団 体 名	特定非営利活動法人 ぜんしん	担当課名	産業振興部農水産課 平塚市農業委員会事務局
事 業 名	農業体験を通して不登校やひきこもりの若者と人材不足に悩む農家をつなぐ 就農支援事業 ～平塚市「スマートライスセンター」の通年営業モデルの創出 に向けて～		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

事前準備や事後の振り返り等において「作業報告書」等を活用し、市の担当職員と団体スタッフが、丁寧に意見交換を行った。時に農家の方を交え、市、団体間で「十分な協議」を重ね、「目的共有」、「役割分担」について、共通の認識を持ちながら事業に取り組めた。

市の担当職員と団体スタッフは、予定していた役割分担のもとに互いに対等で双方の立場を尊重し、良好な協力関係を維持しながら事業を実施できた。農家の方を交えたミーティングほか、市・団体が互いに「対等な立場」で意見交換を重ねながら、事業を進めている。

「相互評価や波及効果」については、協働事業として市職員から農業情勢等の指導等を受けながら事業を展開できたことで、農家の方ほか、関係各位と円滑なコミュニケーションが図れたものと振り返っている。それにより、体験者は安心して事業に参加できる等の効果が得られた。また、農家の方々からも体験者の働きぶりについて一定の評価を得て信頼していただいております、事業の波及効果は、今後も期待できると考えている。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

「目的・目標の達成」については、事業提案書の〈成果目標値〉を概ね達成でき、農業体験の実施によって、一定の新たな労働力が得られた。また、体験者の中には実際に自立した者もあり、今年度も結果を残すことができた。

「費用対効果」については、農家の方々との信頼づくりには時間を要するが、体験者から就農者が輩出される基盤は、少しずつ整いつつある。今後も「雇用トライアル」を受け入れてくださる農家の方々との関係を築き、アルバイト等で就農に結びつく若者の輩出を目指す。

「受益者サービス」については、農家の方々から働きぶりについて「しっかりやってくれているので来年も頼むよ」等、一定の評価が得られた。また、体験者のアンケート結果によると満足度(10段階申告)は、平均値で8.4点と判明した為、高評価を頂けたと見ている。更に、体験者は、「色々な作業工程を体験させてもらい重い米が詰まった袋を運んだりと疲れたけど楽しかったです。」「繊細な作業や地道な作業に力仕事といった多方面の作業を今回はやる事ができたので、とても良い体験ができた」等の声もあり、一定の評価を頂けたと見ている。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

「市民のメリット」については、若者は自立に向け、より実践的な体験ができ、就労も可能になった。また、農家・若者ともに、新たな労働力・雇用の創出に繋げることができたと振り返っている。

「団体のメリット」としては、事業実施に要する「職業体験」の場を確保できたこと。また、数多くの職業人と接する為、会話や対人訓練等の場を得ることができたことが挙げられる。

「市のメリット」については、若者の体験作業が、農業の新たな労働力に繋がったこと。また、本事業により、社会における農業の価値が向上したと考えている。更に、市内の相談機関等を訪ねても解決策を得られない当事者に対し、自立に向けて希望を与えることができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

今後も農業体験等を実施するにあたって以下の対応策を検討している。

・団体と市双方の課題：

- ① ライスセンターでの体験を継続しながら、新たに体験を受け入れてくれる農業法人や農家を発掘し、雇用や就農などに導くことができるように検討
- ② 事業を安定して継続していくために、受入態勢の整備及び人材不足の解消ができるよう、派遣できる人材の確保が必要となる。
- ③ 協働事業終了後、団体の自主的な事業の継続に向け、課題の洗い出しや運営方法の検討等、若者の雇用や就農が実現する仕組みづくりが必要。

・主として団体の課題：

- ① 当事者へ適切な助言ができるように農作業体験等の作業内容の理解を深めていく。
- ② 当該事業を支えるスタッフの増員と育成。
- ③ 協働事業終了後も本事業を継続する為の資金等。

(5) 今後の具体的な展開

☐ 今後も双方で実施（☐ 提案型 ☐ 提案型以外）

☐ 休止または終了

☐ 行政が単独で実施

☒ 団体が単独で実施

☒ その他(委託事業として市から支援を行い、将来的には団体での単独事業化を目指していく。)

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

- ・農家の方々や関連する諸機関と築き上げてきた関係性を更に強化しながら農業体験の実施回数を増やす等して、参加者の自立を促していく。
- ・「作業手引き」を作成することで、団体の農業スキルを向上するとともに、受入農家との信頼関係を得ることができたため、更に手引きの幅や深さを充実させていく。
- ・次年度は、ライスセンターを含め体験できるフィールドや作業の発掘に努めるとともに、行く末は、団体が自主的に本事業を継続して、農業の担い手不足という課題解決に資するような展開を狙い、事業の仕組みづくり等の検討を進めていく。